# 臨

六年

画数 18

筆順 一 臣 臨 臨 臨 臨

オン リン

クン のぞ＝む

## 成り立ち

「目を見張る」形を表した〝臣（4年550）〟と、人の形を表した〝人〟と、品物の意味の〝品（3年410）〟と、この三つを組み合わせて作った字です。

「人が目を見張って、品物の見張りをする」ことを表した字です。

今は、〝覧（6年1011）〟と同じように、「高い所から下を〝望む〟」ことから「身分の高い人がお出ましになる（臨む）」意味に使われています。例臨席、臨場、臨床、臨海、臨時、臨機、臨終、光臨、来臨、降臨。

## 使い方

▽わたしは夏休みに臨海学校へ行きました。海で泳ぐのは初めてだったので、ちょっとこわかったけれど、泳いで見るとプールとは違った感じで愉快でした。

▽ぼくのおじいちゃんは一年前に亡くなりました。臨終の時、ぼくに、「おとうさん、おかあさんを大事にするんだよ」と言ったのを、今でも覚えています。とてもやさしいおじいちゃんでした。亡くなった時は皆泣きました。

## 熟語例

▽臨席（身分の高い人が席にお出ましになること。）

▽臨場（その場に臨むこと。「臨場感あふれる映画」などというふうに、つかいます。）

▽臨床（「病床に臨む」という意味で、病人を診察したり、治療したりすること。）

▽臨海（海に臨むこと。海が望める所）

▽臨時（きまった時でなく、その時に臨んですること。「臨時ニュース」は、その時に応じたニュース）

▽臨機（機に臨んですること。その場に応ずること。）

▽臨終（死に臨んだ時。死にぎわ）



# 朗

六年

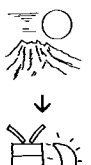
画数 10

筆順 ヨ 朗 朗

オン ロウ

クン ほが＝らか

## 成り立ち



〝良い〟という意味を表した〝良（良4年635、漢音はリョウ）〟と、〝月〟とを組み合わせて作った字です。

「良い月。」という意味の字で、「月の光がとても〝明るい〟」ことを表したものです。

今は、〝月の光〟に限らず、〝明るい〟〝ほがらか〟の意味に使われています。例明朗、晴朗、朗報。

また、〝明瞭（はっきり）〟という意味にも使います。

例朗朗、朗詠、朗誦、朗吟、朗読。

## 使い方

▽わたしの友だちの村岡さんは、とても明朗な性格の人です。お父さんが早くに亡くなって、お母さんと二人ぐらしですが、そんなさびしい境遇を感じさせない、朗らかな人で、わたしは、とてもえらいと思っています。

▽ぼくはお父さんと二人で長崎に旅行しました。当日は、天気も晴朗で、すばらしい旅行日和でした。オランダ坂やグラバー邸などを歩きながら、お父さんに長崎の歴史を聞いて、とても楽しい一日をすごしました。

## 熟語例

▽明朗（性質が明るく朗らかなこと。）

▽晴朗（空がよく晴れて、気分が朗らかなこと。）

▽朗報（明るい知らせ。うれしい知らせ。「おにいさんが合格したという朗報が入った」などというふうに、つかいます。）

▽朗朗（声が大きくはっきりとしていること。「音吐朗朗と詩を読む」などというふうに、つかいます。）

▽朗詠（朗朗と詩歌に節をつけて読むこと。「和歌を朗詠する」などというふうに、つかいます。）